国特別史跡

尖石石器時代遺跡　総括報告書

―縄文社会のデザインがはじまったムラ―

2022. 3

茅野市教育委員会

序　　文

尖石遺跡は、諏訪地方の考古学研究の黎明期に、いち早く中央の学界へ紹介された遺跡でした。そのため尖石遺跡は広く知れわたり、幾多の研究者が訪れましたが、本格的な発掘・研究に取り組んだのは宮坂英弐先生でした。

宮坂先生は、昭和5年から17年まで、教職のかたわら発掘をつづけました。先生は、人々の暮らした住居跡を発掘し、やがてその群集から集落を解明する目的へ進み、ついには尖石遺跡の集落全体の姿を捉えることに成功しました。戦時体制の時代の事で、様々な制約の中での先生の個人的な努力によって、尖石遺跡の発掘が推進されたのです。

また、宮坂先生は終戦後、ただちに隣接する与助尾根遺跡の発掘に着手し、この遺跡でも縄文時代の集落を研究されました。

こうした宮坂先生の発掘研究により、尖石遺跡は「高原地における石器時代の集落地を示すものとして著名」との理由から、昭和17年に国の史跡に指定されました。そして、昭和27年には、縄文時代の遺跡として、はじめて国の特別史跡に指定されたのです。

茅野市は、このすばらしい郷土の文化遺産である尖石遺跡を保存するため、昭和62年度から遺跡の公有化を行い、引き続き平成2年度から17年度まで、史跡整備に伴う試掘調査を進めてまいりました。試掘調査は、宮坂先生の調査の及ばなかった場所を中心に、尖石遺跡の集落構造を捉えることを主要な目的として実施したものであります。この間、平成11・12年度には、試掘調査の終了した与助尾根地区の史跡整備を行い、史跡地の活用を図ってきたところであります。

さて、このたびの総括報告書は、明治時代の尖石遺跡の発見から今回の史跡整備に伴う試掘調査まで、宮坂先生の発掘成果を含め、これまでの尖石遺跡に関する考古学的調査のすべてをまとめたものであります。茅野市は、これからも、わが国文化の象徴である尖石遺跡の保存につとめるとともに、より充実した史跡整備を進め、さらなる活用を図ってまいりたいと考えております。本総括報告書は、そのための学術的な基礎資料となるものであります。また、本書が尖石遺跡を学ぶための資料としても、広く活用されることを願っております。

最後に、尖石遺跡の整備につきまして、長年にわたってご指導をいただいている文化庁、長野県教育委員会をはじめとする関係機関の皆様、ならびに本総括報告書の作成にご指導とご協力を賜りました多くの皆様に、深甚なる感謝を申し上げます。

令和4年3月

茅野市教育委員会

教育長　　山　田　利　幸

例　言

1　本書は国特別史跡尖石石器時代遺跡の調査に係る総括報告書である。

2　本書には明治期から尖石遺跡に関連して行われてきた調査、特に昭和5年以降宮坂英弐を中心として行われた発掘調査、特に昭和15年から昭和17年国史蹟指定までの尖石遺跡の調査、昭和21年から昭和27年尖石遺跡に隣接する与助尾根遺跡の発掘調査成果をまとめた昭和32年刊行の発掘調査報告書『尖石』と、平成2年度から平成17年度に実施された史跡保存整備事業、記念物保存修理事業（環境整備）に係る試掘調査報告書、平成17年度『尖石遺跡整備報告書（1）－与助尾根地区環境整備事業報告書－』、平成18年度『尖石遺跡整備報告書（2）－尖石地区試掘調査報告書－』昭和53年茅野市尖石考古館建設に伴う与助尾根南遺跡の調査報告書『与助尾根南遺跡』、平成5年茅野市埋蔵文化財調査センター（仮称）建設に伴う与助尾根南遺跡調査報告書『与助尾根南遺跡』、令和2年度に与助尾根遺跡で実施した保存目的のための確認調査や、令和3年度に実施した与助尾根遺跡と尖石遺跡間谷部に於ける保存目的の確認調査概略調査成果を合わせ総括報告とする。

3　本書の発行は、令和3年度国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金を受け茅野市教育委員会が実施した。

4　本書の執筆分担は下記のとおりであり、文責については分担文末に記してある。
はじめに、第1章、第2章、第3章、第4章第1節から第2節、第5章第1節から第5節、第7節、第8節1、別編、付表　守矢昌文
第4章第3節1、第5章第1節9・第6節、第6章、第7章　鵜飼幸雄
第4章第3節2　小池岳史
第5章第8節2　山科　哲
作図及び図版編集　小海清明

5　本書掲載の写真や調査図面は、宮坂英弐氏遺族や、矢島数由氏遺族からの寄贈資料を用いたが、図面の一部については修正を加え掲載している。

6　遺構番号については、第16表尖石遺跡周辺住居址一覧で、尖石遺跡周辺の与助尾根遺跡･与助尾根遺跡南遺跡・竜神平下遺跡から検出された住居址に通し番号を付し、住居址通し番号（調査時遺構番号 - 調査年）の表記を基本としたが、第3章調査の歴史の記述では、調査当時の遺構との照合性から、報告時の住居址番号を用い記述している。

7　尖石遺跡・与助尾根遺跡関連原稿・図面・日記・書簡類・新聞記事等の資料については、「宮坂英弐資料仮目録No.2　原稿図面・日記俳句帳・行政文書・書簡・遺品」及び、宮坂家寄贈資料未整理書簡類、平成26年宮坂家寄贈尖石遺跡･与助尾根遺跡関係資料の中から関連する資料を選択し掲載した。また、資料編尖石遺跡・与助尾根遺跡関連写真資料は、宮坂家寄贈資料に基づいて作成された「宮坂英弐資料仮目録No.1　写真」資料の中から尖石遺跡・与助尾根遺跡に関するものを選択し記載した。

8　尖石遺跡で調査され現在財団法人片倉館で所有している土器について、所有者財団法人片倉館、保管している諏訪市博物館のご協力により尖石遺跡の住居址出土土器で、遺構の時期決定資料となり得るものを中心に実測し図示した。また、昭和17年尖石遺跡から出土した独立土器については、独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館、所有者の高天酒造株式会社高橋政幸氏のご協力により無事里帰りし、実測図示することができた。

9　昭和5年から宮坂英弍を中心に発掘調査が実施され、尖石遺跡・与助尾根遺跡から出土した土器・石器については、『尖石遺跡整備報告書（1）－与助尾根地区環境整備事業報告書－』平成17年（2005）や『尖石遺跡整備報告書（2）－尖石地区試掘調査報告書－』平成19年（2007）に掲載されているものに加え、昭和16年以前宮坂英弍が発掘調査し、現在財団法人片倉館が所蔵し諏訪市博物館に寄託されている資料内で、出土住居址番号が判明し住居址の時期決定に資する代表的な土器について写真撮影・実測作業を株式会社シン技術コンサルに委託した。また、尖石遺跡・与助尾根遺跡の土器変遷を探る上に重要な資料について守矢が実測を行い図化した。この他に令和2年度尖石遺跡出土黒曜石科学分析・土器付着物科学分析を株式会社シン技術コンサルに委託した。

10　昭和15年から昭和27年まで宮坂英弍が尖石遺跡、与助尾根遺跡で発掘調査した竪穴住居址の実測図は、報告書『尖石』掲載の実測図1/75を再編集し縮尺1/80に統一した。また、実測図のケバ表現端を下場と捉え結線し下場とし再トレースを行った。

11　本書掲載の遺構、土器・石器等の縮尺は挿図に記載している。

12　本文中の住居址番号については、第16表尖石遺跡周辺住居址一覧表で付されている尖石遺跡1号住居址からの連番で付してあるが、文章中通番だと宮坂英弍の調査番号との突合に手間取るため、与助尾根遺跡第114号（与1号-S21）住居址と遺跡名・通番号・遺跡略名調査時番号・調査年の表記としたが、尖石遺跡で検出された遺構については遺跡略名を省略している。また、土坑についても付編第2表尖石遺跡周辺土坑属性一覧表で連番を付したが、文中表記については住居址番号と同様に遺跡名・通番号・遺跡略名調査時番号・調査年と表記してある。

13　本文中で尖石遺跡の調査研究に関わった人物については敬称を略し、できるだけ当時の所属役職等を付記している。また、引用文献や書簡、行政文書についてはできるだけ原本に当たり、読解のむずかしい資料については、柳川英司八ヶ岳総合博物館係長の手を煩わした。引用に際しては原文に用いられている旧漢字、旧かなづかい、変体仮名についてできるだけ原文を尊重したが、旧字体や変体仮名のフォントにないものについては新字体を用いている。なお、原文は縦書きであったが、本文が横書きのため縦書き原文を横書きに改めて記述し、行政文書は書式段落を活かし、書簡については改行を一字開けで表記している。

14　本書作成の体制は以下のとおりである。

主体者　山田利幸（茅野市教育委員会教育長）　事務局　北澤政英（生涯学習部長）・五味健志（文化財課長）　執筆・担当　小池岳史（課長補佐兼文化財係長）・山科　哲（考古館係長）・両角優花（考古館主事）・堀川洸太朗（文化財係主事）・吉村璃来（文化財係主事）・鵜飼幸雄（文化財係会計年度任用職員）・小林深志（文化財係会計年度任用職員）・小海清明（考古館係会計年度任用職員）・守矢昌文（尖石縄文考古館長（会計年度任用職員））

15　本書作成にあたり、下記の方々、機関にご指導・ご協力を賜った。ご芳名を記して感謝いたします。（敬称略）

宮坂みよし、矢島安永、高橋政幸、小平洋市、小林達雄、勅使河原彰、水ノ江和同、森先一貴、近江俊秀、斉藤慶吏、川畑　純、品川欣也、井出浩正、上田典男、贄田　明、児玉利一、百瀬一郎、文化庁、財団法人片倉館、独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館、長野県教育委員会、諏訪市博物館、一般社団法人大昔調査会

目　次

序　文
例　言
目　次

はじめに　総括報告書の目的と作成方針について

第１節　総括報告書作成の目的 …… 1
第２節　総括報告書作成の方法とその方針 …… 2
1. 尖石遺跡・与助尾根遺跡の調査報告の再整理 …… 2
2. 宮坂英弐調査以降、平成２年度から試掘調査の再整理 …… 2
3. 尖石遺跡・与助尾根遺跡の出土品の再整理と提示 …… 3

第１章　史跡の概要

第１節　茅野市と史跡の概要 …… 4
1. 茅野市の地理的概要 …… 4
2. 史跡の位置 …… 4
第２節　史跡指定に至るまでの経緯 …… 4
1. 江戸時代の尖石周辺の様子 …… 4
2. 明治期以降の開墾と尖石遺跡の調査史概要 …… 6

第２章　史跡を取り巻く環境

第１節　史跡の位置する地形 …… 7
1. 尖石台地の地形と湧水 …… 7
第２節　史跡の位置する地形の成り立ち …… 11
1. 八ヶ岳の火山活動と尖石台地の成因 …… 11
第３節　史跡周辺の歴史的環境 …… 12
1. 尖石遺跡周辺の遺跡 …… 12
2. 旧石器時代から古代の尖石遺跡周辺の歴史的環境 …… 14
3. 中世以降の尖石遺跡周辺の歴史的環境 …… 16
4. 地形と土地利用 …… 17

第３章　調査の歴史

第１節　尖石遺跡の調査と研究 …… 19
1. 小平小平治の調査 …… 19
2. 『諏訪史』編纂事業に伴う調査 …… 21
3. 昭和初期の尖石遺跡の調査 …… 23
4. 宮坂英弐・小平幸衛の市道脇等の炉址調査 …… 24
5. 林道改修に伴う発掘調査 …… 26

6. 尖石遺跡の史蹟保存 …… 29
7. 長野縣保存史蹟指定後の発掘調査 …… 32
8. 昭和 15 年以降の竪穴住居址・集落の本格的な調査 …… 35
9. 石器時代聚落への着目と聚落構造の解明 …… 38
10. 石器時代竪穴住居址復原家屋の研究 …… 42
11. 尖石遺跡の縄文時代中期集落の復元 …… 43
12. 国史蹟「尖石石器時代遺蹟」指定 …… 46
13. 国史蹟「尖石石器時代遺蹟」指定後の保護措置 …… 55
14. 国史蹟「尖石石器時代遺蹟」指定後の評価 …… 57

第 2 節　与助尾根遺跡の調査と研究 …… 59
1. 与助尾根遺跡の発掘調査の開始 …… 59
2. 昭和 21 年から昭和 23 年までの調査 …… 59
3. 昭和 24 年の調査と「尖石を守る会」の結成 …… 61
4. 与助尾根遺跡第 4 次調査の実施 …… 63
5. 与助尾根遺跡第 5 次調査の実施 …… 64
6. 与助尾根遺跡への復原家屋の建設と遺跡整備 …… 65
7. 与助尾根遺跡の集落復元研究 …… 69

第 3 節　国特別史跡「尖石石器時代遺跡」の指定と保護保存 …… 71
1. 国特別史跡「尖石石器時代遺跡」の指定 …… 71
2. 特別史跡指定記念の事業 …… 71
3. 出土品収蔵施設の建設 …… 73
4. 昭和 29 年の尖石遺跡の発掘と史跡整備 …… 76
5. 発掘調査報告書の刊行 …… 78

第 4 章　国特別史跡の整備と調査

第 1 節　新たな尖石考古館の建設と史跡整備 …… 89
1. 尖石考古館の移転と新築 …… 89
2. 尖石遺跡の整備と公有化 …… 90
3. 平成 5 年国特別史跡追加指定 …… 92

第 2 節　尖石遺跡・与助尾根遺跡周辺遺跡の調査と研究 …… 94
1. 尖石考古館建設に伴う与助尾根南遺跡の発掘調査とその成果 …… 94
2. 茅野市埋蔵文化財センター（仮称）建設に伴う与助尾根南遺跡の発掘とその成果 …… 96
3. 竜神平下遺跡の発見とその調査 …… 97
4. 平成 9 年竜神平下遺跡の試掘調査とその成果 …… 98
5. 青少年自然の森建設と尖石縄文考古館周辺整備に伴う尖石遺跡、与助尾根遺跡の範囲確認の実施 …… 98
6. 尖石遺跡東側周辺に点在する遺跡 …… 99

第 3 節　平成 2 年以降の特別史跡尖石遺跡の試掘調査とその成果 …… 99
1. 史跡整備に伴う試掘調査 …… 99
2. 保存目的のための確認調査 …… 102
3. 保存目的のための谷部の確認調査 …… 116

第５章　調査の成果

第１節　確認された縄文時代の遺構 …… 119
1. 竪穴住居址の数 …… 119
2. 竪穴住居址の構造 …… 120
3. 竪穴住居址の分布 …… 168
4. 土坑の数 …… 170
5. 土坑の構造 …… 170
6. 土坑の分布 …… 174
7. 列石の構造と構築された位置 …… 177
8. 独立土器の位置と構造 …… 179
9. 遺物集中区 …… 182
第２節　確認された縄文時代外の遺構 …… 185
1. 平安時代の竪穴住居址 …… 185
第３節　確認された縄文時代の遺物 …… 187
1. 縄文時代土器の概要と分類 …… 187
2. 縄文時代土器群の構成 …… 218
3. 土器の器形と器種 …… 231
4. 土製品 …… 235
5. 石器 …… 242
第４節　確認された縄文時代以外の遺物 …… 249
1. 旧石器時代の遺物 …… 249
2. 古墳時代の遺物 …… 249
3. 平安時代の遺物 …… 250
第５節　遺構全体図の作成と調査区の設定 …… 250
1. 遺構全体図の作成について …… 250
2. 試掘調査区の設定とその方法 …… 251
第６節　尖石遺跡の原地形 …… 253
1. 地形と尖石遺跡の集落観 …… 253
2. 中尾根の検証 …… 253
3. 南尾根と中央窪地の地形 …… 255
4. 北尾根・南尾根と中央窪地 …… 256
第７節　自然科学分析による環境復元 …… 256
1. 遺跡環境復元に係る自然科学的調査 …… 256
2. 史跡整備・保存管理に係る植生、動物相、水文環境の環境調査 …… 258
第８節　遺物の自然科学分析 …… 259
1. 出土資料の自然科学分析の導入 …… 259
2. 自然科学分析について …… 260

第６章　尖石・与助尾根遺跡の縄文集落

第１節　宮坂英弐の尖石・与助尾根集落論 …… 273

はじめに …… 273
1. 尖石遺跡の集落研究 …… 273
2. 与助尾根遺跡の集落論 …… 275
3. 報告書『尖石』の刊行 …… 276
おわりに …… 278
第２節　宮坂英弐後の尖石・与助尾根遺跡の研究 …… 278
はじめに …… 278
第１期 …… 279
第２期 …… 281
第３期 …… 283
第４期 …… 285
おわりに …… 286
第３節　尖石・与助尾根遺跡の縄文集落観の再構築 …… 287
はじめに …… 287
1. 宮坂英弐の尖石集落観 …… 288
2. 試掘調査からみた尖石遺跡の集落形態 …… 289
3. 宮坂英弐の集落観と試掘調査による集落観の相違 …… 289
4. 尖石遺跡の地形 …… 290
5. 尖石遺跡の遺構・遺物の分布 …… 291
6. 尖石遺跡の集落構成と変遷 …… 293
7. 尖石遺跡の中期中葉並立集落と中期後葉双環状集落 …… 304
8. 与助尾根遺跡の集落 …… 307
9. 与助尾根南遺跡の集落 …… 310
10. 竜神平下遺跡の集落 …… 311
11. 尖石・与助尾根・与助尾根南遺跡の集落・集団関係 …… 312
12. 尖石・与助尾根遺跡の縄文集落 …… 315

第７章　総　括 …… 322

別編１　尖石・与助尾根遺跡に関わった人々
第１節　黎明期の尖石遺跡の調査者 …… 325
1. 明治時代　尖石遺跡の調査者 …… 325
第２節　大正時代　尖石遺跡の研究者 …… 326
1.『諏訪史』第１巻編纂と尖石遺跡の発掘調査に関わった人々 …… 326
第３節　昭和初期　尖石遺跡の調査・研究者 …… 329
1. 昭和初期の調査に関わった人々 …… 329
2. 昭和 10 年以降から終戦までの調査に関わった人々 …… 329
第４節　戦後の尖石遺跡・与助尾根遺跡の調査に関わった人々 …… 334
1. 戦後与助尾根遺跡の調査に関わった人々 …… 334
2. 尖石遺跡、与助尾根遺跡の出土品と芸術家 …… 335

別編２　尖石遺跡の自然科学分析結果

第１節　土器付着物の炭素・窒素安定同位体比分析 …… 337
第２節　尖石遺跡出土黒曜石製石器の産地推定 …… 340

付　表

付表　第１表　尖石遺跡周辺遺跡竪穴住居址一覧表 …… 343
付表　第２表　尖石遺跡周辺遺跡土坑一覧表 …… 373
付表　第３表　尖石遺跡・与助尾根遺跡関連原稿・図面・書簡類収蔵目録 …… 390
付表　第４表　尖石遺跡周辺遺跡出土土器図化一覧 …… 423

写真図版